

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>具体的に定めていないが、地域の方にグループホームを理解して頂けるよう利用者の方々の、日々の暮らしぶりや行事等の活動状況を掲載した広報誌を定期的に地域に発送している。管理者は利用者本意の心で接する様に職員に啓発している。</p>	<p>○</p> <p>地域密着型サービスとしての理念とは何かを管理者は掘り下げて考える必要がある。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>幅広い意味での理念として、利用者の緊急時に対する対応や重度化した場合の指針を定めて家族から同意を頂いている。ADLが低下した場合でも看取りをふくめてグループホームで対応可能な範囲の限度まで定めておりその考えを職員と共有している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>行事の予定やその行事の様子、又ボランティアの活動状況、職員紹介などを掲載して定期的に家族や地域に発送しているが理念を理解して頂けるような取り組みはしていない。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>事業所が地域活動に参加はしていないが、逆に、夏祭りや敬老会などを開催して地域の方が気軽に立ち寄りボランティアとして協力して頂くなど、グループホームでの行事を通じて地域の方との交流がもていえる。又、自主消防隊を近隣地域の方々に委嘱して不時の災害に備えており地域の方々に利用者の生活を側面から支援していただいている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を実施するにあたって今までは、管理者主導といえる、したがって職員は、その意義を十分に理解していたとは言い難い。評価員の助言や評価結果に対しては謙虚に受け止め改善に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>前年度までは、概ね管理者が作成したものに対して職員が加筆や訂正を行ってきたが今年度からは各項目をランダムに振り分けて、実際に職員に作成させた、その意味では職員は日々の業務を顧みる良い機会となっている。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議をまだ実施していない。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議の要綱を作成し、委員の人選もできている、早急に実施する予定である。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>疑問に思ったり、質問をしたい事項がある時などは、その都度丁寧に回答又は助言を頂いている。</p>	<p>○</p> <p>市町村とのやりとりは主に、介護保険法に関する問い合わせ等に限られる、さらに幅広く連携をとりサービスの質の向上につなげていきたい。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>それらの研修に管理者は参加している。</p>	<p>○</p> <p>研修には参加しているが、それらの申し立ての仕方についてや、その後の職務についてなど、さらに理解を深める必要がある。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者の虐待に関する研修には職員に積極的に参加させている、又事業所内では、虐待が見過ごされないよう注意をしている、又身体の虐待のみならず言葉の虐待にも注意を払っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退居にあたっては家族又は利用者と十分に話し合い納得されたうえでやっている。</p>	
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見、不満、苦情又は悩み等に対して、必要であれば、家族も混じえて問題の解決に取り組んでいる。又苦情処理担当者を設けて苦情に対応する体制にある。</p>	
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、健康状態、生活状況、お預かり金の出納状況や特記すべきお知らせなどを記載して、各家族に定期的に発送している。身体状態や精神状態に、特変がみられた場合はその都度お知らせしている。</p>	
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各棟の責任者が柔軟に対応しており必要に応じてその問題などを家族と解決に向けて話しあっている。家族アンケートを実施してその結果を活かしている。</p>	<p>○ アンケートならびに利用者アンケートも含めて今後も実施したいと考えている。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>当会幹部職員による連絡会議を通じる等、必要に応じて管理者がその意見を汲み取って、運営者に伺いを立てている。運営者は必要に応じてその意見を概ね反映させている。</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>各棟の責任者は、入居者の生活をまず第一に考え、柔軟に勤務調整を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当法人は開設4年目に入ったばかりであり、事業所間での人事異動はまだ行っていない。当面これを継続するつもりで、利用者はなじみの職員ときわめて良好な関係を保っていると自負している。管理者を始め開設当初からの職員が約7割を占め、良好な関係の要因にもなっている。		
5. 人材の育成と支援			
17 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設4年目の法人で、組織内で計画的に人材育成をする体制には至っていない。そこで県立保健大学を始め各機関での外部研修の受講を積極的に促し、職員全員1年1受講を目指している。なお、初任者研修はVTRにより実施している。		
18 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区認知症GH協議会を始め、同業者団体に加盟して、研修会や講演会などに積極的に参加してサービスの質向上に努め、交流を深めている。情報交換の場としても重要である。		
19 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事を離れてのリフレッシュ、元気回復対策として、夏季特別休暇の付与、納涼会や忘年会を実施して職員のストレス解消に努めている。	○	施設外レクリエーションとして旅行会等も実施して職員間の親睦を図りたい。
20 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年間1職員1研修受講目標の設定は職員の向上心を促す手段として有効と考えている。ケアマネなど上級資格を目指す職員には模擬試験受験には出勤扱いするなど便宜を与えている。研修受講を努力の評価としている。	○	職員の勤務状況を客観的に評価する手段として、勤務評定の実施に努めたい。永年勤務対策として、退職金制度の導入など福利厚生対策を進めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や毎月発行するお便りなどを通して利用者の過ごしている状況・利用者が訴えている事など報告をし、本人・家族・職員お互いに情報の共有を図っている。必要に応じて家族と話し合う機会を設けている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の話や本人の話を傾聴し、家族関係の理解は概ねしており、様々な状況にも対応できるよう努力している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、婦人会などに席があった方には婦人部主催の催し物への参加の支援を行うなど、個別に対応している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別の状態観察・性格の把握に努めており、食事の席など考慮し、孤立しないよう努めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も苑を訪問して下さる家族はおり、気軽に立ち寄れる雰囲気作りやふれあいの場作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認知症の進行の程度にもよるが、本人の意向は必ず聞き、また家族にも相談し出来る限り本人本位で行う努力はしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居する際には他関係機関や本人・家族より情報は得ており、また入居後も状況に応じて他関係機関と連絡を取り、把握に努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>今年度よりセンター方式にてアセスメントを行い利用者の総合的な把握に努めている。</p>	<p>センター方式についてさらに理解していく必要がある。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当・計画作成担当でアセスメントを行いながら介護計画を作成しており、本人・家族を含まないで介護計画を作成している。したがって家族から同意を得る際には、ほとんどの場合、作成後のものに伺いを立て、同意を得ている。</p>	<p>作成時には利用者・本人・家族を交えて計画書を作れるよう場面作りをしていく必要がある。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期・短期計画を定期的に見直しており、状態の変化があった際は随時計画の変更を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>全職員が介護計画を把握しており、また毎日の記録用紙にもプランの内容が盛り込まれており、見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の要望があれば宿泊や食事の提供なども可能であり、又家族と共有できる行事等行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ボランティアの協力により菜園や花壇を作って頂いており、利用者は四季を楽しんでいる。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>行っていない。</p>		<p>本人の意向や必要性に応じてインフォーマルなサービスの支援も行っていきたい。</p>
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターとのやりとりがなく協働していない。</p>		<p>権利擁護・成年後見制度などの相談を受けた場合に備えて一般的な手続きや相談できる関係機関などを把握しておく必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれに主治医があり、毎月の定期受診や、状況に応じた対応を行っている。又皮膚科、歯科医師には往診をして頂いており、継続した医療が受けられるように支援を行っている。通院時には付き添いを行っている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との連携はないが、各主治医に診断、治療を行ってもらっている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師が常勤で従事しており日常の健康管理に努めている。病院調整等も行っている。24時間のオンコール体制ができている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院をした場合でも、3ヶ月は居室を確保しており、安心して治療に専念できるようにしている。常時医療が必要な状態になった場合には家族との話し合いの元、医療機関との連絡を行っている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約する際に、緊急時の対応・重度化したときの指針を定めて説明を行い納得されたうえで同意をいただいている。終末期・重度化した場合のグループホームの対応については、そのときの状況にあわせて、家族はもちろんの事、職員と話し合いその方針を共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した時、終末期と診断された時は主治医・家族・苑の管理者との話し合いの場を設け今後について検討し、一緒に考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居時には、他関係機関へ情報提供をするなど連携を行っている。個人情報の取り扱いについては予め家族から同意を頂いている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>気持ちを傷つけないよう配慮をしているが稀に指導的言動になる時もある。記録・個人情報に関しては、持ち出さない、口外しないを徹底している。</p>	○	<p>一人ひとりの人格を尊重しその人らしく生活できるよう取組んでいきたい。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>定期的にケースカンファレンスを実施してその方の望みや力量に応じて対応しているが、やや認知症の進行が著しい方におかれては対応に苦慮する場面もある。</p>	○	<p>十分にコミュニケーションをとり自信を高めるような言葉かけや働きかけができるよう支援していきたい。</p>
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の言動や表情を観察して、随時散歩や買い物に出かけたり、夜間に不穏がみられる方におかれては入眠前にゆとりをもってコミュニケーションをとったりしている。</p>	○	<p>日々の暮らしに満足できる様な働きを支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容を随時活用したりその方の希望に応じて随時、馴染みの店に出掛ける支援をしている。</p>	○	<p>日常的に、離床後の整容や、食事後の衣類への食べこぼしの付着や、口の回りの清潔にさらに気を配る必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜などその季節の旬のものを共に採り、そしてしたごしらえをして天ぷらにしたり草もちを作ったりして楽しんでいる。食器拭きやテーブル拭きなど、その方の力量に応じて役割が確立している。	○	気分転換を兼ねて外食等の機会をもう少し作りたい。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	くつろぎの時間には個々の好みを傾聴して菓子類を数種類用意して好きなものを選んで楽しんで頂いている。日常の観察において一人ひとりの嗜好を把握している。飲酒、喫煙は原則認めていない。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意、便意が曖昧で、失禁が多い方に対しては、時間を決めて細目にトイレの声掛けや誘導を行っている。又些細なトイレのサインを見逃さないようにしている。極力オムツ類を使用せず布パンツを使用して個々のニーズに対応している。	○	今後も心地よい排泄を促す意味で極力、オムツ類の使用は避ける、又羞恥心やプライバシーに気を配り特に失禁時は、自尊心を傷つけないよう配慮する。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低、週に2回の入浴以外にも本人の希望があれば、随時入浴できるよう職員間で取り組めがあるが、希望する方は稀で、自分の意思をうまく表現できない方にいたっては週に2回の入浴にとどまっている。又、座位保持の困難な方の入浴は十分な設備もなくハード面で不備がある。	○	入浴時間帯など個人の希望を傾聴せずに行っているといえる、今後希望を傾聴して行く必要がある。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者本意の考えで、特に時間の取り決めなどはなく、安楽に過ごしていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	やや認知力の程度によって差があると言える、自分の希望をうまく表現できる方に対しては概ね支援できていると言えるが、全員が満足するには至っていない。	○	職員が心に余裕をもって利用者と接し一人ひとりの声に耳を傾けていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に関しては、希望者以外は、グループホームに預けさせて頂き、管理させて頂いている。紛失した場合のリスクを考慮して希望者以外は所持していない。	○	力量に応じて現金を所持して頂き、日常生活用品等は本人に支払いして頂く様支援していきたい。
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り支援するようにしている。グループホーム周辺の環境が良いので散歩等を通じて四季の移り変わりを楽しませている。	○	買い物や外食の機会をもう少し増やしていきたい。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に外食やドライブ等に出掛けているが体調を考慮するあまり毎年、画的となっている。	○	定期的に行っているものの、一人ひとりの希望の場所、あるいは家族と共に外出するまでには至らず、今後は機会をつくり支援していきたい。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば随時支援している。又、希望や訴えをうまく表現できない方で帰宅願望や不穏言動が聞かれたときには必要に応じて、家族等に電話や面会をうながしている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には居心地よく過ごして頂けるよう接遇には特に気を配っている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケア3原則を管理者は遵守する考えであり、まずはトップの強い意志が必要であることを念頭においている。又、職員には、これらの研修に積極的に参加させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険防止のため、やむを得ず玄関ではなく棟への出入口を施錠している。施錠している理由を家族に説明して理解をいただいている。	○	現実的に鍵を掛けないケアを行うのは困難であるが行動を抑制する行為に抵触するものであることを職員は再認識する必要がある。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りが重要である事を職員は認識し常にさりげなく所在確認を行っている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	劇薬物や危険物は保管場所を定め毎日所在確認と記録を行っている。	○	即、危険と思われない物品も利用者によっては危険物となる場合もある(歯磨き粉やハンドソープ、櫛等)ため撤去するのではなく所在確認をする必要がある。
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ビデオ学習等を通じて適切なケアの仕方や事故後の対処の仕方等を学んでいる。又事故報告書やヒヤリハット報告書を提出してその案件を随時話し合い再発防止に努めている。又消防計画にのっとり年に2回は消防訓練を行っている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていない。緊急時には24時間看護師に連絡がとれるようオンコール体制は整っている。	○	緊急時に対する各種のマニュアルはあるが定期的に訓練や勉強会を行う必要がある。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主消防隊を組織してその方々にも参加を仰ぎ消防計画に基づき夜間の火災を想定して年に2回は消防訓練を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>看取りを含めたグループホームの考え方を説明して同意を頂いている又一般状態に特変がみられた時には電話等でその都度報告を行っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>慢性的に高、低血圧や発熱が、頻回な方におかれては平常時でも2検～3検等としてバイタル測定を密に行っている。又体調の変化には気をつけており異変に気付いたときには速やかに情報を共有している。</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>一人ひとりの内服薬の説明書をいつでも閲覧できるような場所に保管している。又不明なところは看護師に質問して支持や助言を仰いでいる。</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>下剤内服により排便を促しているが、食事や体を動かす事による便秘予防に対しては配慮に欠ける。</p>	○	下剤の内服のみならず、便秘予防を意識した食事や運動を実施していきたい。
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>その方の力量に応じて自立支援を促しながら介助や見守りを行っている。</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>一人ひとりの好みを把握しバランスを考慮して献立を作成している。水分量は摂取された量を記録し職員が個々の水分量を把握できるようにしている。又、水分は定時以外にもその都度希望に応じて提供している。</p>	○	バランスを考慮して献立を作成しているが、実際の総カロリーを考慮する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員を含めた全ての訪問者に居住空間に入る前に手指の消毒を促している。又、週に1回のリネン交換や手摺りの消毒を毎日行っている。インフルエンザの予防接種を全ての利用者のみならず全ての職員が行っている。	○	手摺りの消毒を毎日行っているがさらに各所の消毒を行う必要がある。又、感染症予防についてはさらに勉強する必要がある。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用目的に応じて使い分けをするようにし、消毒している。週に2度食材を購入し肉魚類は冷凍しておりその都度解凍して調理している。しかし野菜は時々少し鮮度に欠けるものがある。	○	食材の購入を週に2度からもう少し増やしていく必要がある。又、調理用具の衛生管理はもっと強化しなければならない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	苑庭に菜園や花壇を設けており、利用者の方々に季節感を味わっていただいている。又菜園を設けて利用者の方々と収穫をしている。その意味では皆様に馴染みやすい環境といえる。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは十分にゆとりのあるスペースが確保されている、又その季節に応じて利用者の方々と共に作成した装飾品を各所に施している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を設けて利用者の方々がくつろぐ事が出来るスペースがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が希望された物品や、家族が準備した物を居室に置いて本人が使いやすいように配慮している。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室は温度調節できるようになっており温度計や本人の希望を考慮して温度調節を行っている。各居室によっては、うまく温度調節が出来ない所があり、電気ストーブやヒーターなどで対応している。</p>		
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホール内は危険物や障害物がないよう気を配っている。又、食事テーブルやソファの配置等自立支援や安全を考慮して随時配置を換えている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>出来る限り自立支援を促すよう心掛けている。置物を他のものと錯覚され、不穩になる方に対してはさりげなくその置物にカバーを掛けるなどを工夫している。転倒が頻回な方に対し転倒を恐れるばかりに過度な援助をするときがある。</p>	○	<p>ケースカンファレンスにおいてその日の体調や精神状態を段階的にとらえてその状況に応じてできるだけ自立支援を促しながら支援することとした。</p>
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>グループホームのみならず、同一敷地内のデイサービスで行われる慰問などの行事に参加して、広く建物を活用している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

デイサービスと共用の大型の福祉車両があるため身体機能の低い方でも容易に外出が可能で外出の機会が多く利用者の方々に四季を楽しんで頂いている。看護師・准看護師が常勤で従事していることにより利用者は安心して生活を送るができ、又職員のスキルアップにもつながっている。